

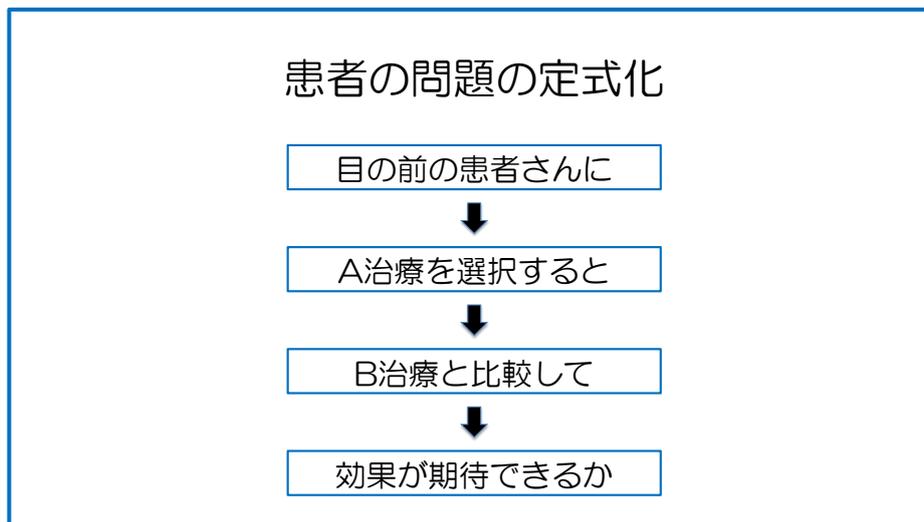
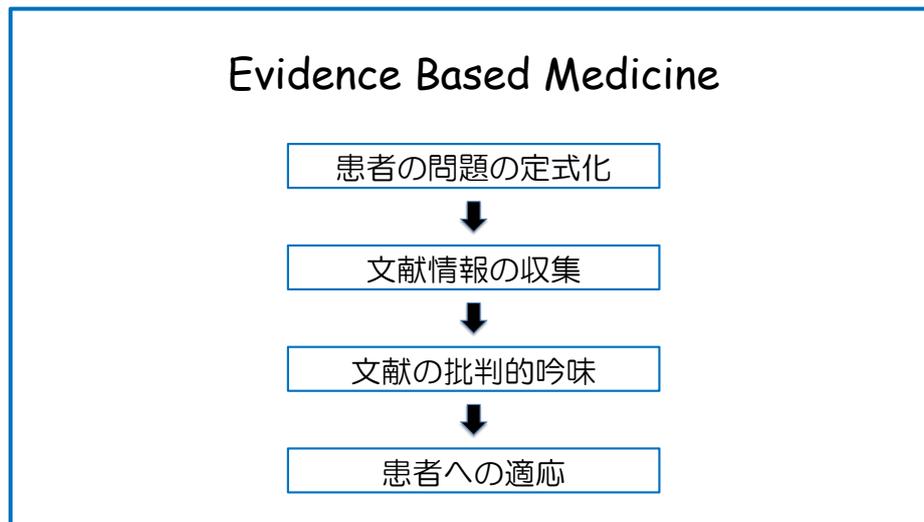
臨床研究の作り方



臨床研究は日常の診療の疑問から始まる

基本は Evidenced Based Medicine (EBM)¹

臨床研究は日常の診療の疑問から始まります。医学部の講義にも EBM が取り上げられていて、その方法については今さら説明はいらないと思います。研修開始当初で何もわからない時は、時間が無いため指導医の意見を聞いたり、教科書を調べたりするだけでも良いでしょうが、慣れて来たら日常的に EBM を行いましょう。

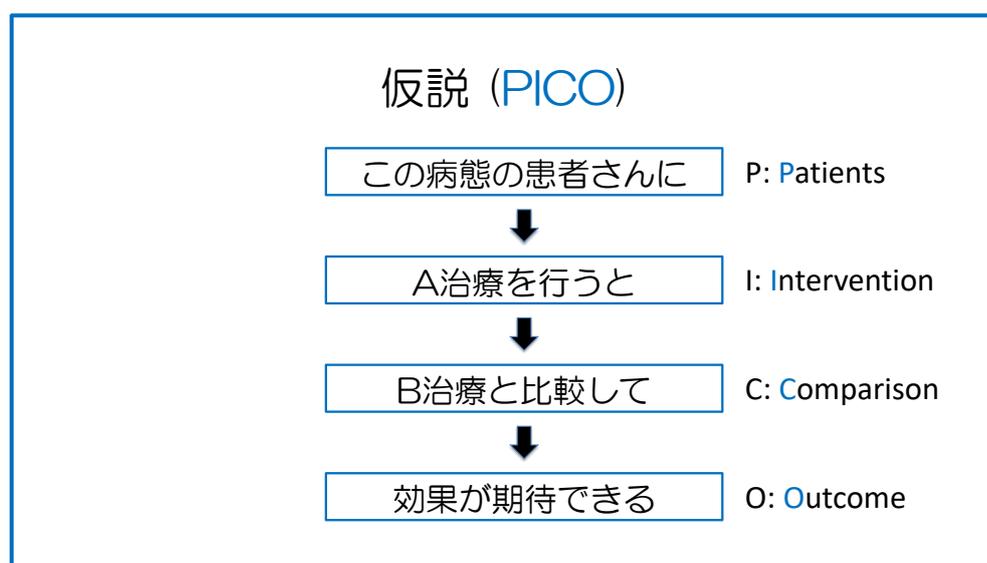


ここで最も重要なことは「**患者の問題を定式化**」する作業です。普段無意識に行っている作業ですが、定式化することによって問題点がより明確になります。定式化したら「文献情報の収集」ですが、PubMed, Google Scholar や医中誌で現在では容易に可能です。「文献の批判的吟味」

¹ Q&A : EBM とは何でしょうか？

はエビデンスレベル²に準じますが、その他に掲載雑誌の質（Impact Factor）が高いもの、検討症例の多いものほど信頼性が高いと考えて下さい。そして、「診療ガイドライン」を参照してみましょう。診療ガイドラインは究極の EBM と考えて良いと思います。それでも解決しない場合は「臨床研究」のチャンスかも知れません。研修医の先生が感じるような疑問の多くは、過去に沢山の人が疑問に感じていて、既に解決されている問題も多いのですが、中には指導医が気付かなかった「新鮮な疑問」が EBM で発見されることもあります。そのような臨床上の「疑問」を解決するために行われるのが「臨床研究」です。

「臨床研究」では「問題の定式化」と同じように臨床上の疑問に対して「仮説」を立てます。仮説は PICO³で表現します。「臨床研究とは仮説を検証すること」と覚えて下さい。



2021/4/1 藤井雅志

² Q&A：エビデンスレベルとは何でしょうか？

³ Q&A：PICO とは何でしょうか？